

# これから財政の話をしよう2012 part3

## 社会保険関係の特別会計

今日は福祉のなかでも複雑な  
社会保険の特別会計のお話です。





# 保険はお金を出しあって危険に備える仕組み

そもそも保険って？

保険の基本的な考え方

たくさんの人

少ない人



保険料

保険会社など

保険金



そもそも保険は、  
交通事故とか、火事とか  
めったに起こらないけど、起こったら  
大変な負担になるものについて、みんなが  
お金を出し合って備えるというものです。

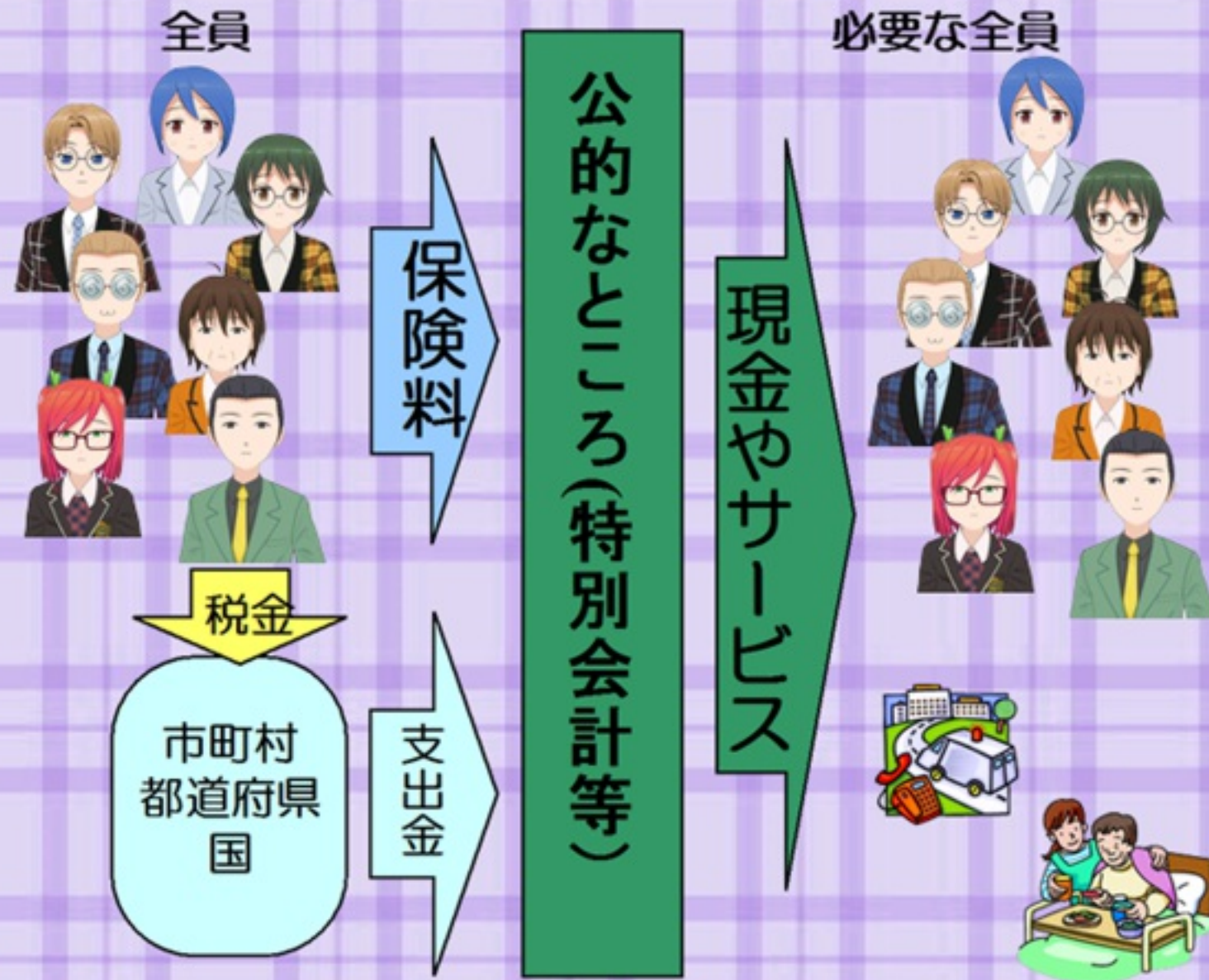
「社会」保険は  
保険とどう違うの？



# 社会保険はみんなのセーフティネット

社会保険とは？

社会保険の基本的な考え方



社会保険は病気とか加齢とかみんなが直面する可能性のあるリスクに対して、社会全体で備えようというものよ。

医療保険とか、介護保険、年金などがそうね。

どうして市や国から補助が出ているの？

社会保険はセーフティネットなので、それは社会全体として支える必要があるからよ。

※諸説あります。

保険	社会保険
・多く支払うほど保障大	・必要に応じた給付
・リスクが大きいほど保険料が高い	・支払い能力に応じた保険料

日本の主な社会保険としては医療保険、介護保険、年金保険、失業保険、労災保険があります。



# 国民健康保険は医療保険の一種

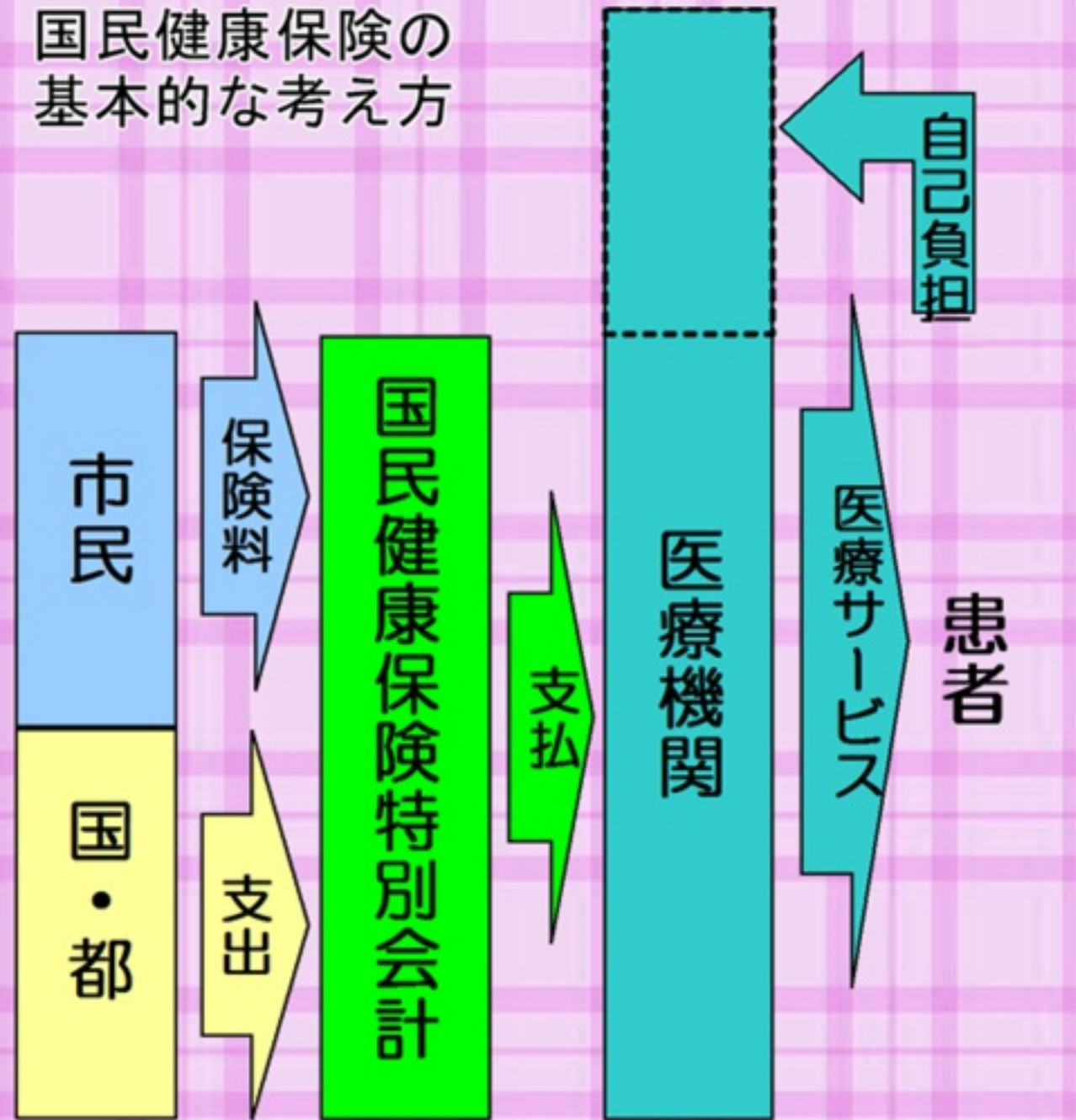
医療保険の一つに「国民健康保険」の制度があります。国民健康保険は市町村単位の特別会計により運営されています。

医療サービスに係るお金のうち自己負担以外の部分をみんなからの保険料と国や都からのお金で負担するのが基本です。原則は保険料と国・都は半々ですが、...

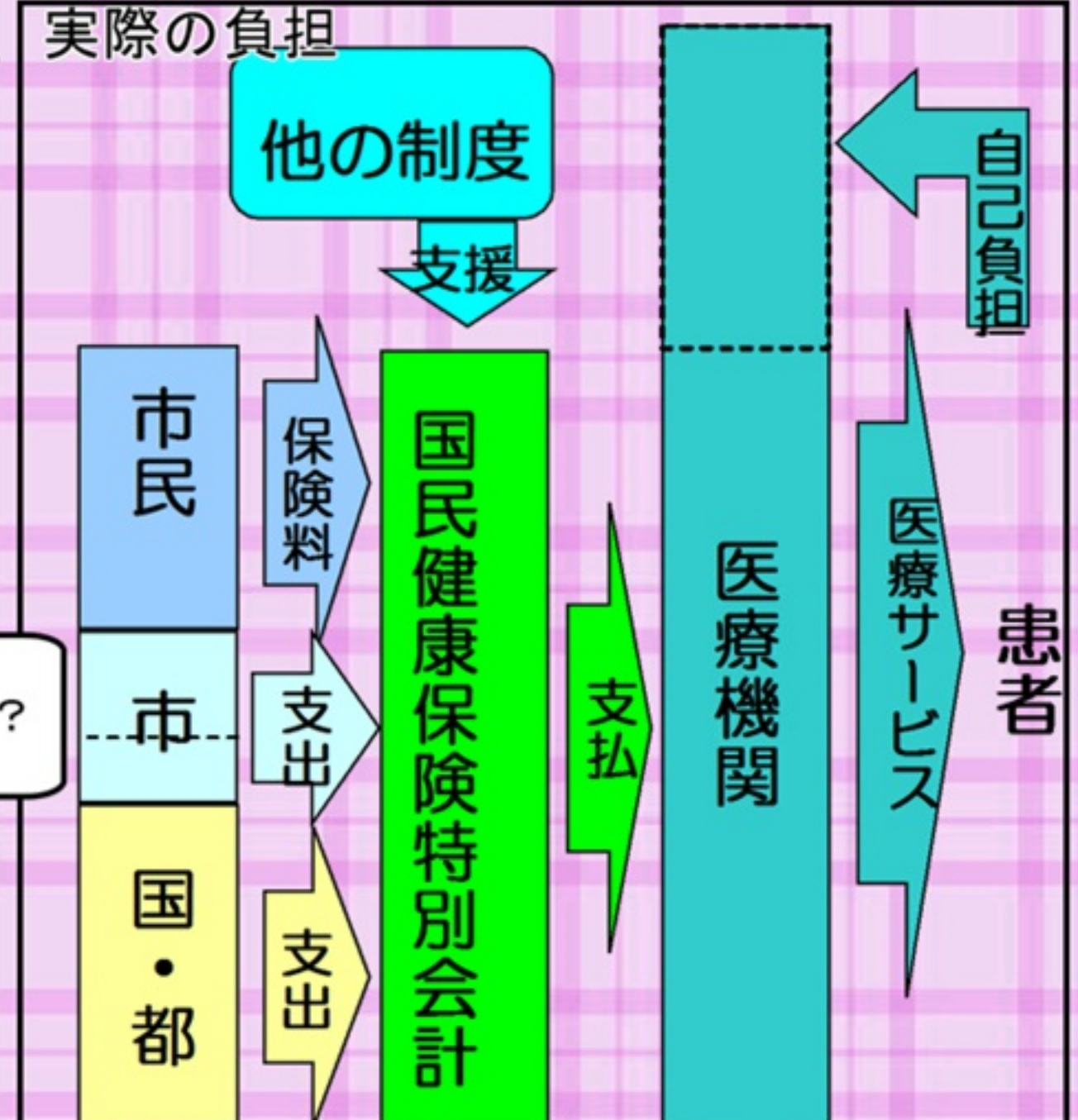
実際は保険料を軽減するために市がお金を出したり、余裕のある市には国や都の補助が少なく、その分市がお金を出したり、他の制度からの補助があったりしてかなり複雑な仕組みになっています。

※自己負担分は以後は適宜省略します。

## 国民健康保険の基本的な考え方



## 実際の負担



他の制度って？



# サラリーマンは別の制度

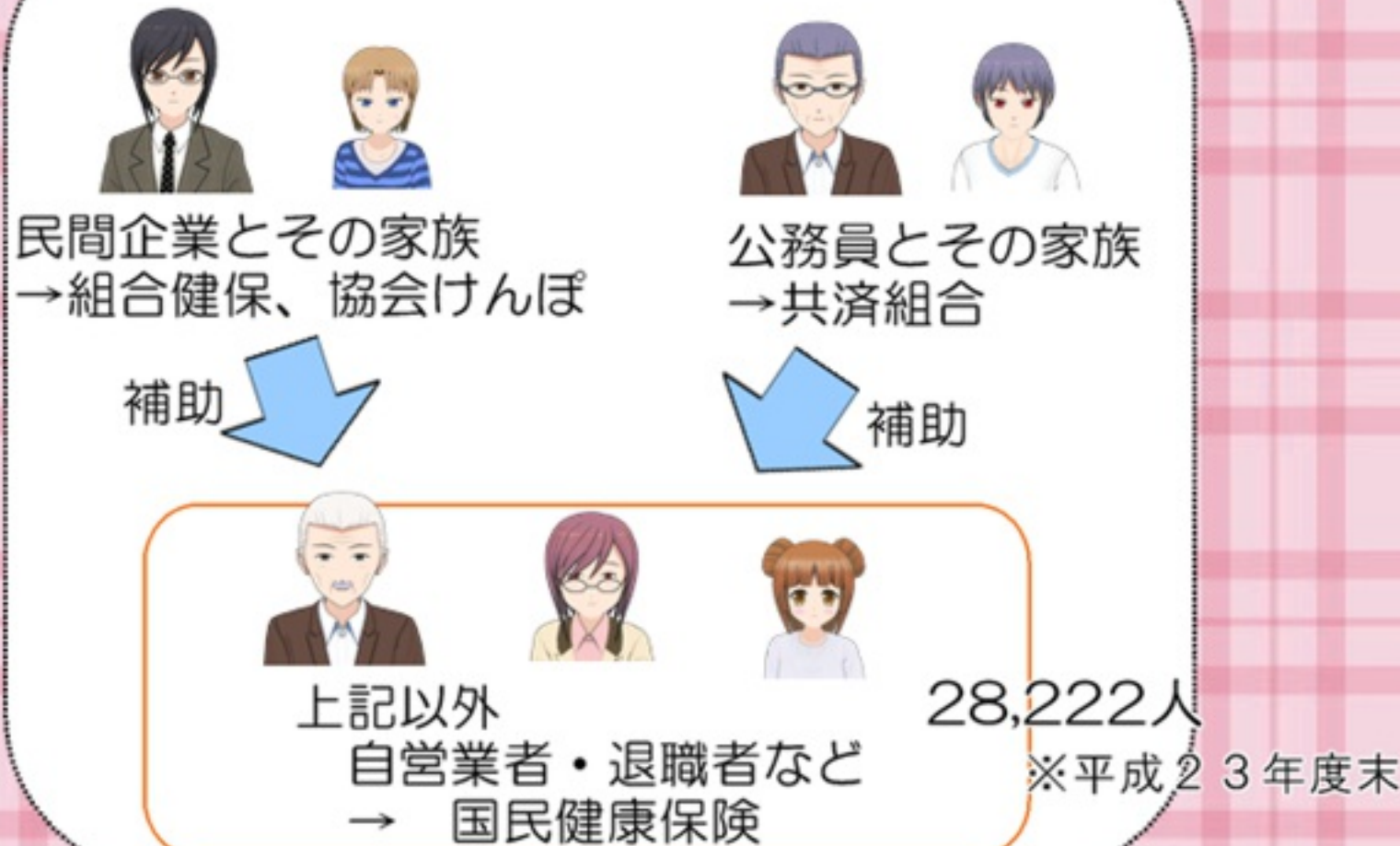
# 医療保険の他の制度

国民健康保険は小金井市民全員が入っているわけじゃないの。

会社員や公務員は別な保険の制度に入っているのよ。国民健康保険は高齢者の割合が多い。高齢者の割合が多いと医療費がかかるから、財政的に苦しくなる。

なので、国民全体で支えるという趣旨から65歳以上の医療費については他の若い人が多い制度が財政支援をしているのよ。

小金井市民



75歳以上は別の制度

決算書でわかるのは、オレンジの枠の部分だけなのね。

補助するんだったら、最初から一つの制度にしとけばいいのに。

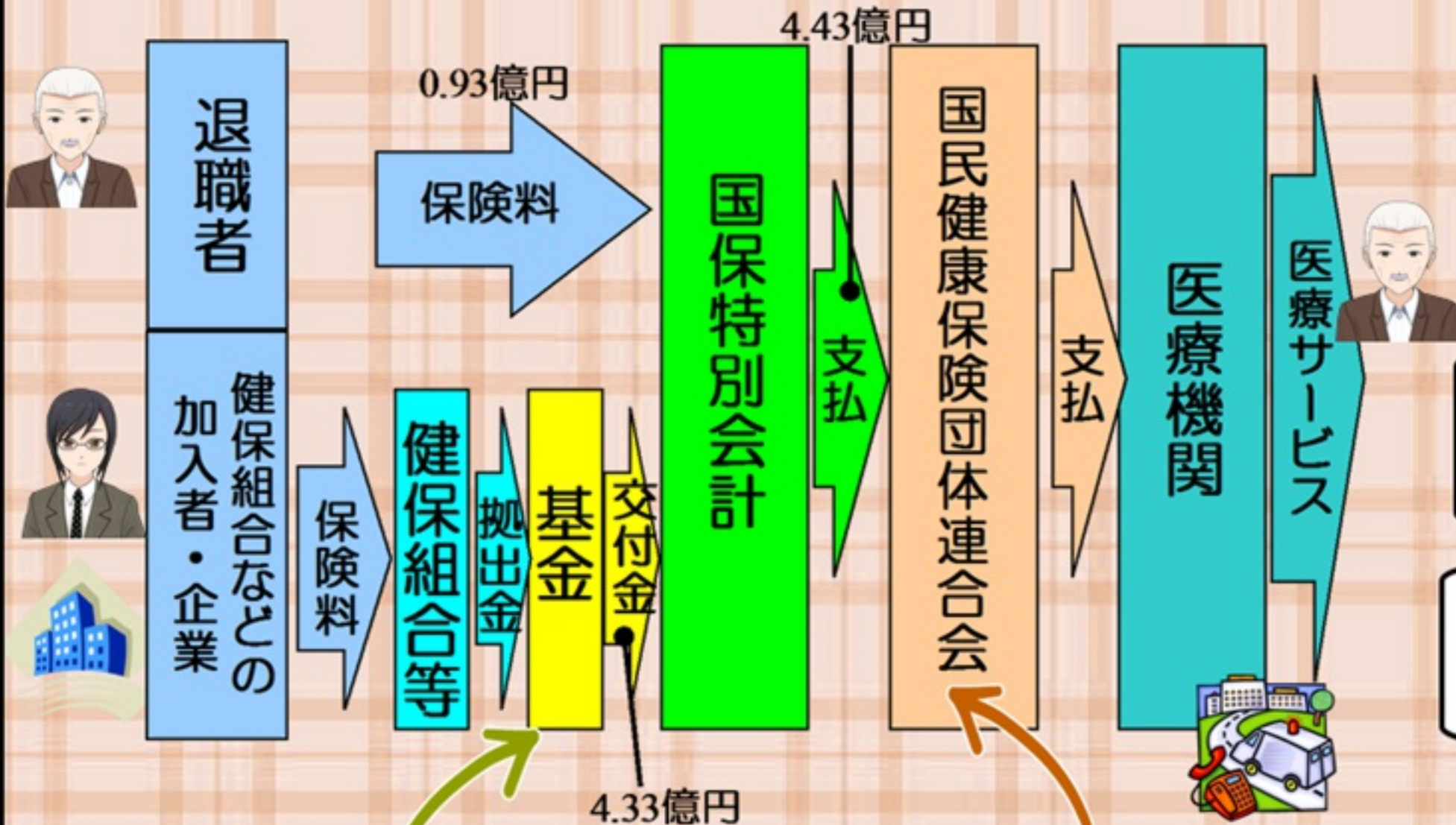
確かにそうね。実は国民健康保険の制度は後からできてきたので、他の制度をやめてしまうわけにはいかなかったのかもしれないわね。

市町村単位でなくてもよさそう・・・。

市町村単位だと財政的に不安定になるので財政運営を都道府県単位にしようという動きになっているわ。

4.43億円/1,688人 退職者の医療費/人数

## 国民健康保険（退職者）



小金井市の国民健康保険のお金の流れを詳しくみていきます。

国民健康保険の加入者の中でも退職者はそれ以外の人とは別な仕組みになっています。こちらのほうが簡単なので先に説明します。

退職者の医療費は退職者が払う保険料と現役世代が健保組合などに払っている保険料から負担されています。

金額は平成23年度の決算の数字。収支が合わないけど、理由はわからないわ。

社会保険報酬支払基金、今後「基金」と省略して表記します。医療機関への支払事務を行うと共に制度の間のお金のやり取りを行っている全国組織です。

国民健康保険団体連合会とは都道府県単位で各市町村の健康保険を束ねる団体で、主な業務は医療機関への支払事務。

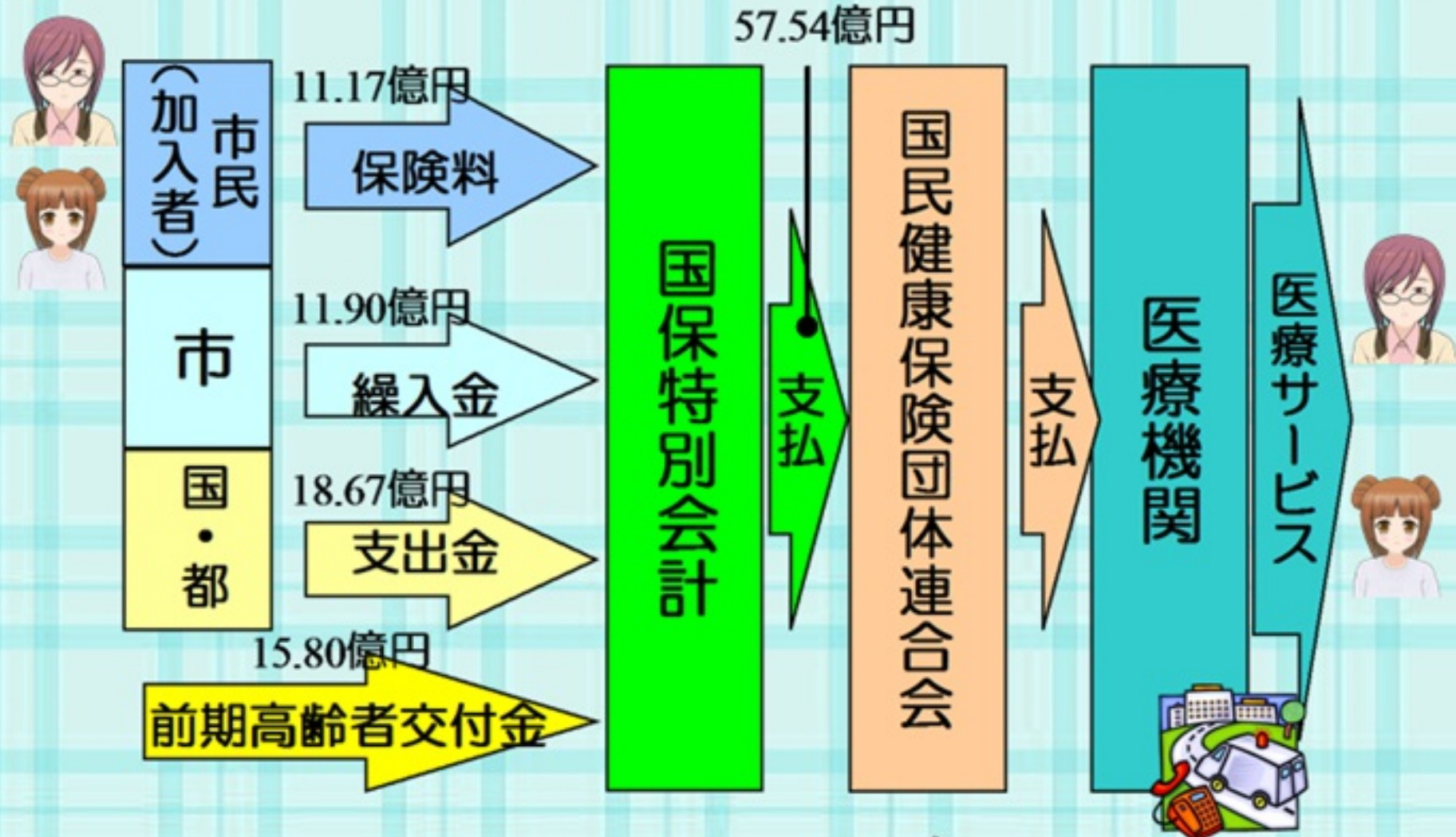
※国保＝国民健康保険  
以下適宜略語で使います。

※なお今後は断りなき限り  
平成23年度決算の数字です。

小金井市の退職者は1,688人  
一人あたり年間約26万円の給付

57.54億円 / 26,524人 一般の医療費/人数

# 国民健康保険 (一般)



退職者以外の一般の国民健康保険のお金の流れを説明します。

医療費は加入者の保険料と、市からの繰入金、国や都からの支出金、それから、前期高齢者交付金により、まかなわれています。

財源については対応関係がわからない部分もあり、一部推測を含んでいます。

一般の保険加入者は26,524人  
一人年間約22万円の給付、  
という計算ね。

前期高齢者交付金ってなんですか？

それは次のページで説明します。



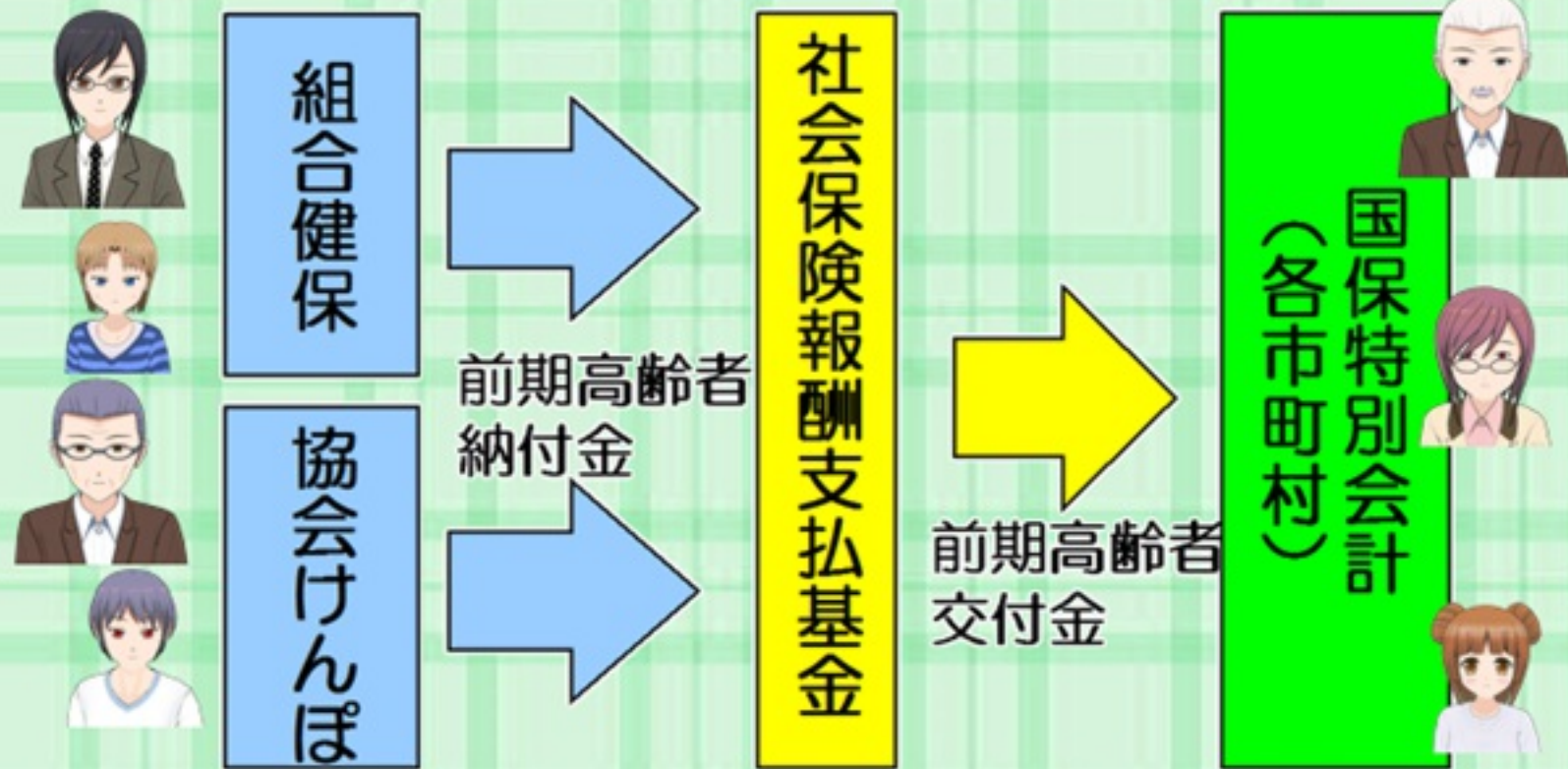


# 前期高齢者交付金はサラリーマンの保険料から

## 前期高齢者交付金

前期高齢者が少ない

前期高齢者が多い



65～74歳までを前期高齢者といいます。前期高齢者は若い世代より医療費がかかるので、前期高齢者の割合が多いと財政的に苦しくなります。そのため、前期高齢者が少ない組合健保や協会けんぽ（全国健康保険協会）と前期高齢者の割合が多い各市町村の国保の間の調整を行うために、組合健保や協会けんぽからは前期高齢者納付金を基金に納め、逆に基金から国保に前期高齢者交付金が支払われます。

ふふん。

なんで  
あなたがいるのよ！

平成21年度は組合健保から1.1兆円、協会けんぽからも1.1兆円前期高齢者の納付金が拠出されているわ。ちなみに、組合健保の医療費の給付は総額3.4兆円、協会けんぽは4.4兆円。



# 保険料にはいろいろなお金が含まれている

## 保険料の中身

国民健康保険の加入者が支払っている保険料は医療費の支払にかかる分だけではありません。実は

- ・後期高齢者支援費分と
- ・介護納付費分

が含まれています。

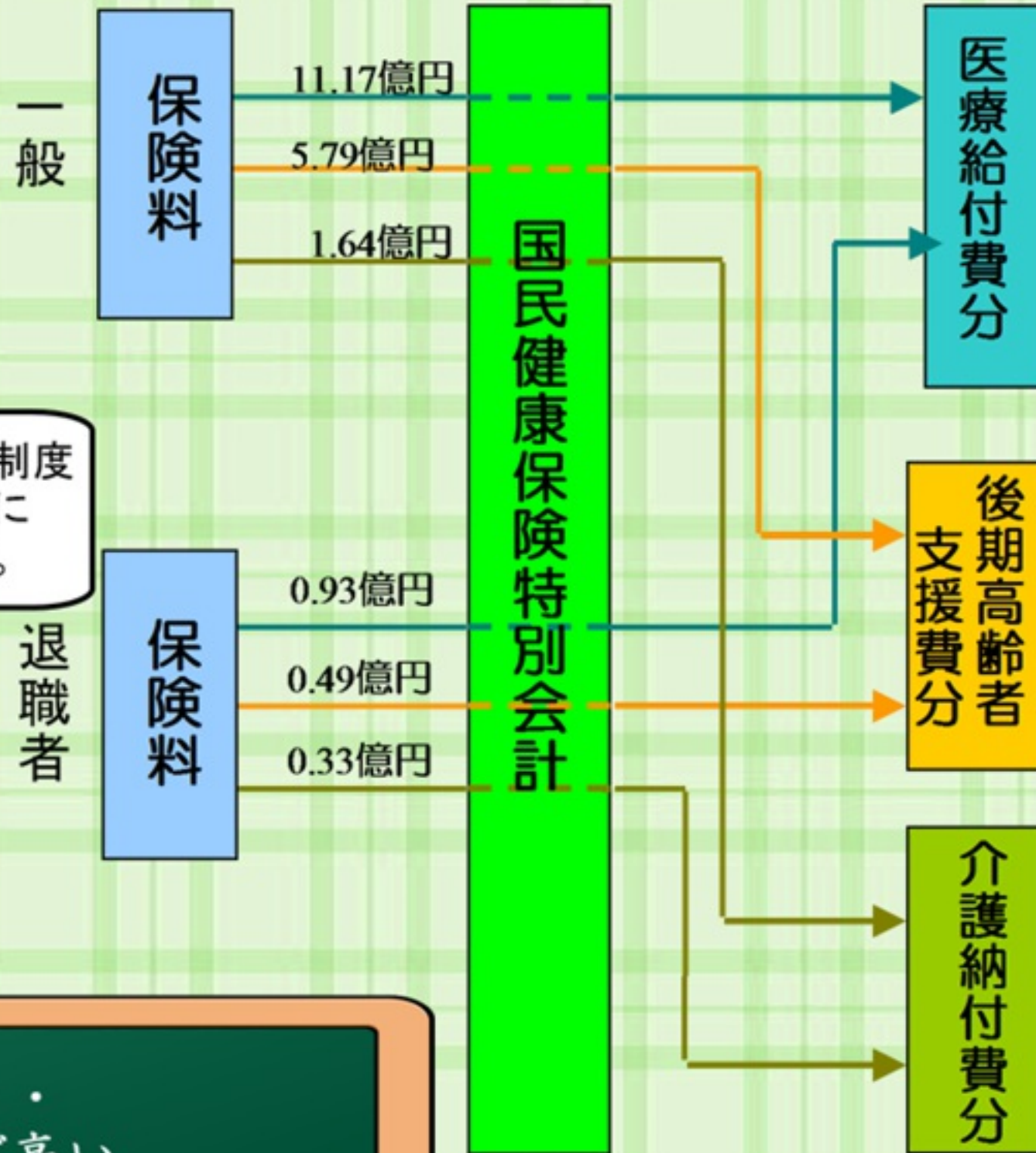
それぞれ後期高齢者医療制度と介護保険制度を財政的に支援するためのものです。



ちなみに保険料の額は・・・

- 所得割：所得が高いほど高い
- 資産割：土地建物を持っているとき高い
- 均等割：一人あたり定額
- 平等割：世帯あたり定額

により計算されています。



今まで説明した部分

次ページ以降で、それぞれの制度について説明をします。

保険料の一人あたりの負担は7.2万円/年。世帯あたりだと11.2万円。



# 後期高齢者医療もみんなのお金で支えられている

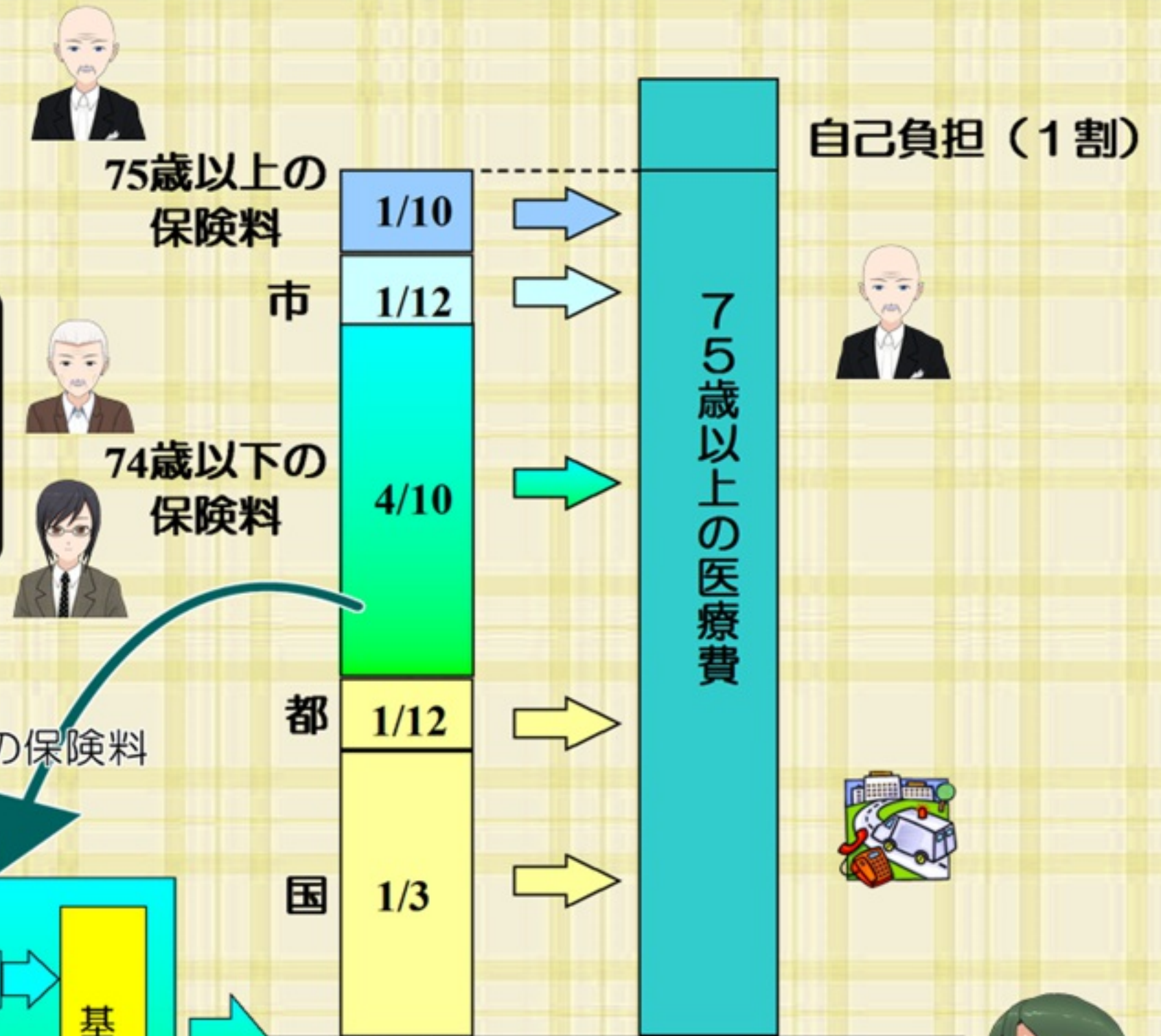
## 後期高齢者医療制度とは

後期高齢者医療制度とは75歳以上の医療費をまかなうための制度です。  
基本的には自己負担部分を除いて75歳以上の方の保険料で10%、74歳以下の方の保険料で40%残りの半分を市と国と都で負担します。市：国：都は1：4：1だから、市の負担割合は1/12ということになるわ。計算上。

74歳以下の保険料というのは、会社員が入っている組合や全国の市町村の国民健康保険からの拠出されているお金。前ページの「後期高齢者支援費分」がそれにあたります。

拠出されたお金は一度基金に集められます。

### 基本的な考え方



いろいろなところからお金が出ているのね。

# 市は法律で定められている割合以上に負担

後期高齢者医療制度とは2

市の決算書で分かる範囲

75歳以上の保険料と市の負担分は市の特別会計を通じて、東京都の広域連合に支払われます。

市が負担すべき金額は決まっているので保険料の徴収漏れがあるとその分は市が補填することになります。

広域連合って？

市町村や都道府県を超えた広域行政を行うために作られる特別な地方自治体の一種です。後期高齢者医療制度を運営するため都道府県単位で「後期高齢者医療広域連合」が組成されています。

75歳以上の  
保険料

市

1/10

1/12

市の特別会計

74歳以下の  
保険料

都

1/12

国

1/3

東京都の広域連合

自己負担（1割）

75歳以上の医療費

法定より市の負担割合が多いのはなぜかしら？

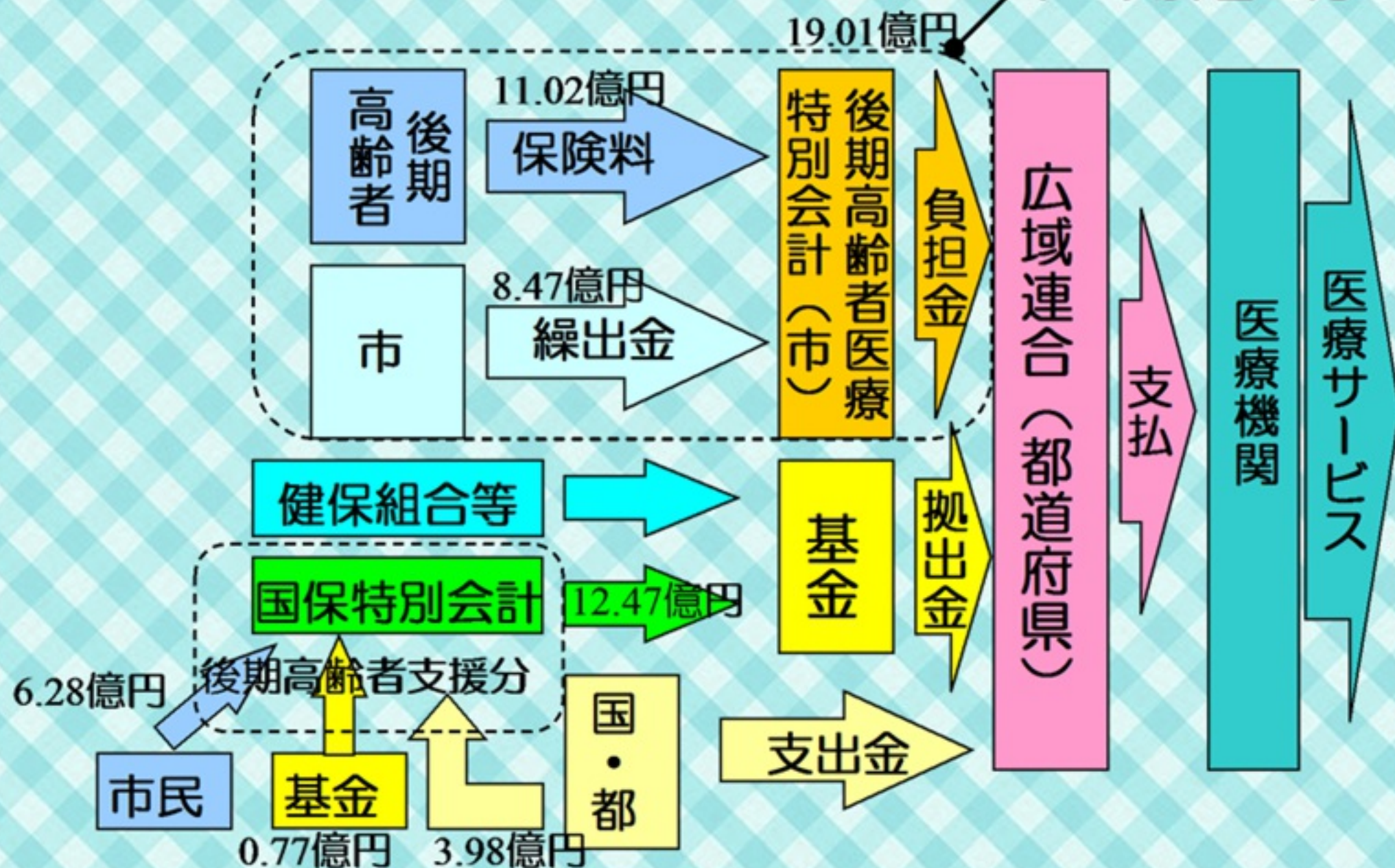
東京都では  
市の特別会計 19.7% (18.3%)  
74歳以下 45.4% (40%)  
都 8.1% (8.3%)  
国 26.8% (33.3%)  
の負担割合となっています。  
カッコ内は法定の割合



市の決算書に見えるのは一部分だけ

後期高齢者医療制度とは3

市の決算書で分かる範囲



小金井市の後期高齢者の医療費（自己負担除く）は97億円ぐらいと推測されます。

市内の75歳以上の人口は11,110人  
一人年間平均約87万円ってところ。

まとめるとこんな感じ。  
74歳以下の保険料として国民健康保険特別会計から拠出しているお金は市民の保険料以外からも出ているわ。  
国保特別会計が基金に拠出する金額の収支が合わないけどなぜかはわからないわ。

次は介護保険！

市は1/8を負担。

介護保険とは1

介護保険とは介護や支援が必要な高齢者に対して施設や在宅で介護サービスを提供するための費用をまかなうための保険です。基本的には自己負担部分を除いて65歳以上の方の保険料と64歳以下の方の保険料で50%。残りの半分のうちその半分を国、残りを市と都で折半します。

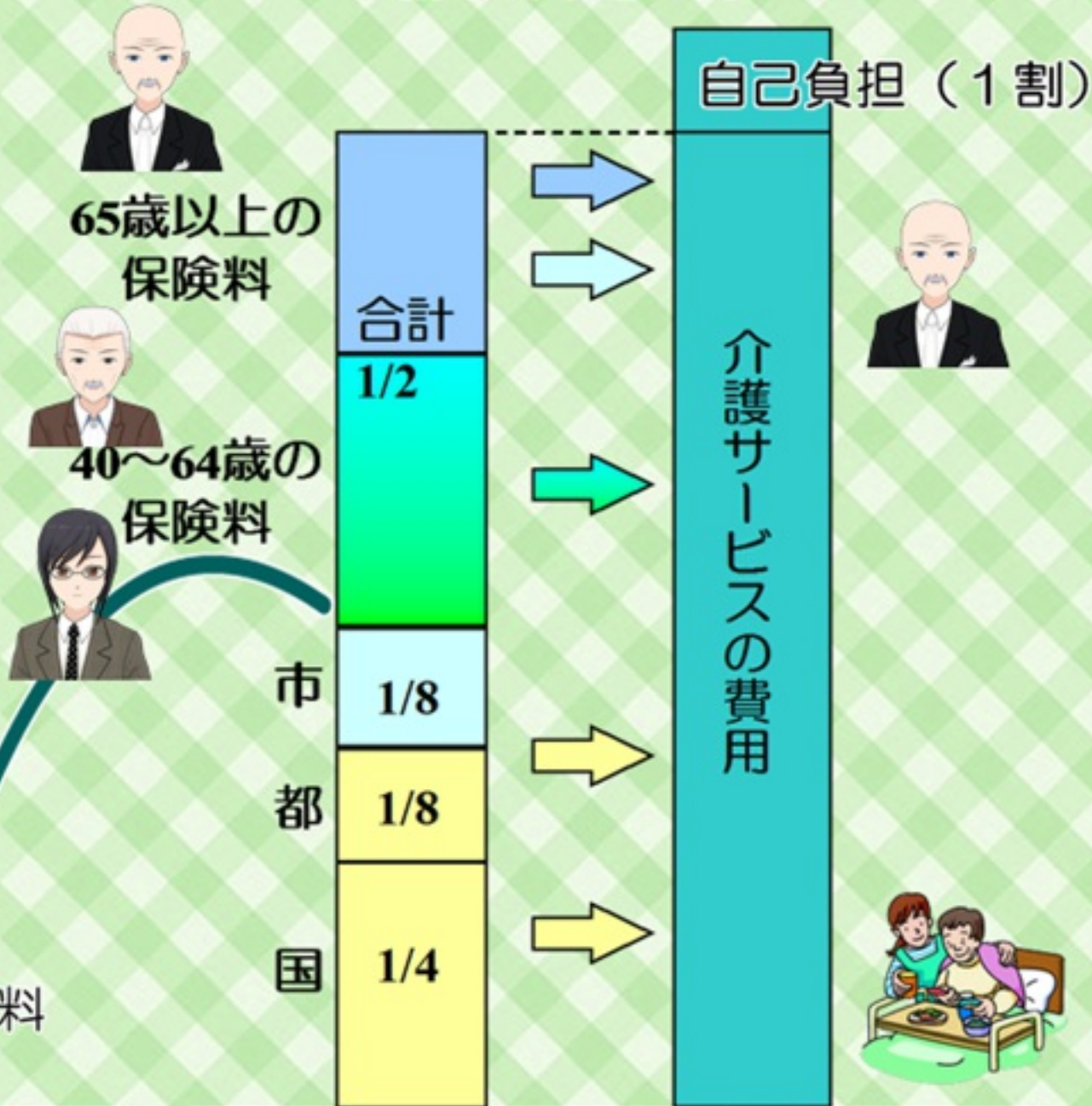
40~64歳以下の保険料というのは、会社員が入っている組合や全国の市町村の国民健康保険からの拠出されているお金。介護保険料として徴収されています。国民健康保険では「介護納付費分」がそれにあたります。

64歳以下から集めた保険料は一度基金に集められます。

64歳以下の保険料の中身



基本的な考え方



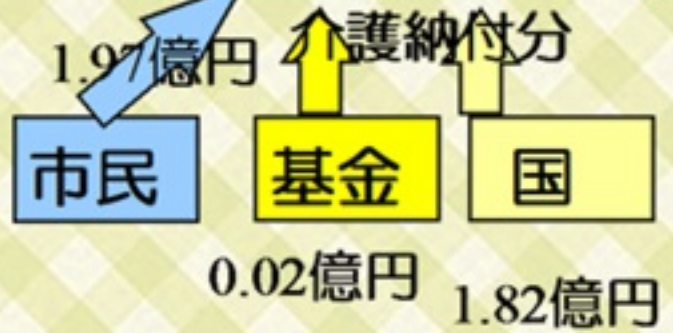
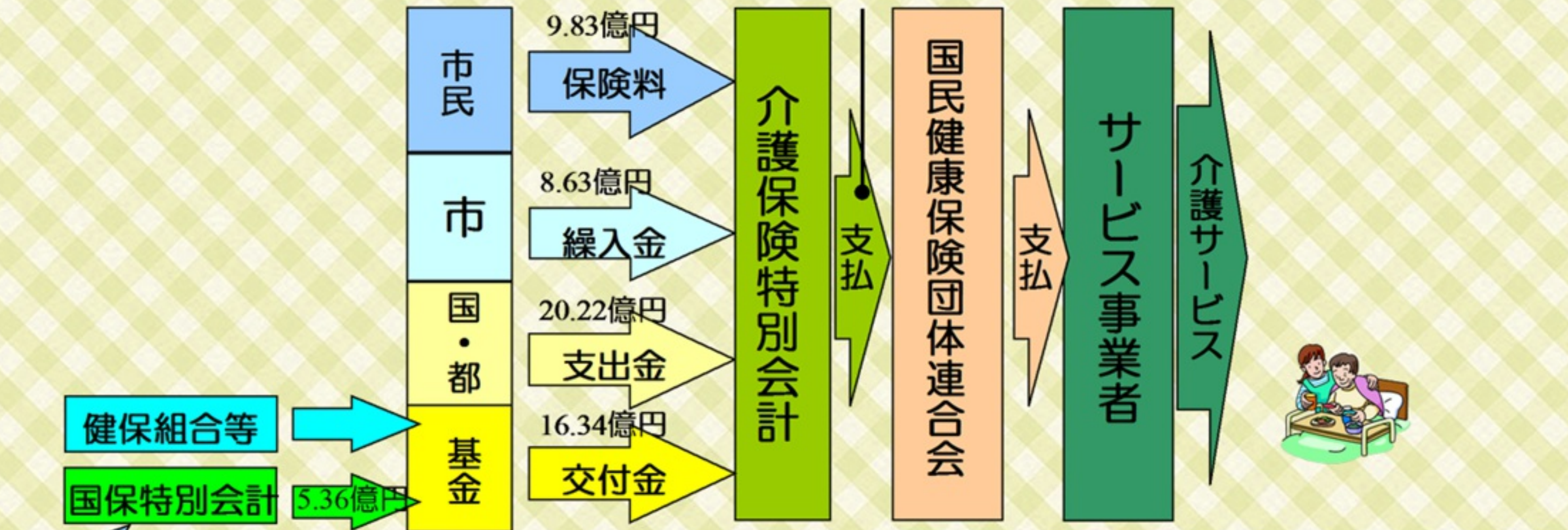
後期高齢者医療制度に似ているわ

介護保険の方が先にできたのよ



54.30億円 / 4,174人 介護費用 / 認定者数

介護保険とは2



まとめるとこんな感じ。  
64歳以下の保険料として国民健康保険特別会計から拠出しているお金は市民の保険料以外からも出ているわ。  
国保特別会計が基金に拠出する金額の収支が合わないけどなぜかはわからないわ。

介護サービスを受けるためには介護認定を受けなければならないの。  
平成23年度末で要介護・要支援合わせて4,174人。  
65歳以上の人の約18.9%。

認定者数あたりの給付費は130万円/年

先生、さっきとセリフがほとんど一緒です。

デジャヴよ、きっと。



# 受益と負担は各約213億円

# 市民の受益と負担

国民健康保険、後期高齢者医療  
介護保険に関する市民の受益と負担を  
まとめるとこんな感じになるわ。

国民健康保険の加入者以外も  
勤務先が加入する組合の保険料や  
税金を通じて国民健康保険を支えて  
いるので、国保の財政は  
決して他人ごとではないのよ。

## 受益

54億円



介護サービス



医療サービス

159億円

## 小金井市民



民間企業とその家族  
→ 組合健保、協会けんぽ



公務員とその家族  
→ 共済組合



75歳以上



自営業者・退職者など  
→ 国民健康保険

## 負担

他の制度の保険料  
62億円



国・都を通じて  
79億円

市を通じて  
31億円



市の特別会計への保険料  
41億円





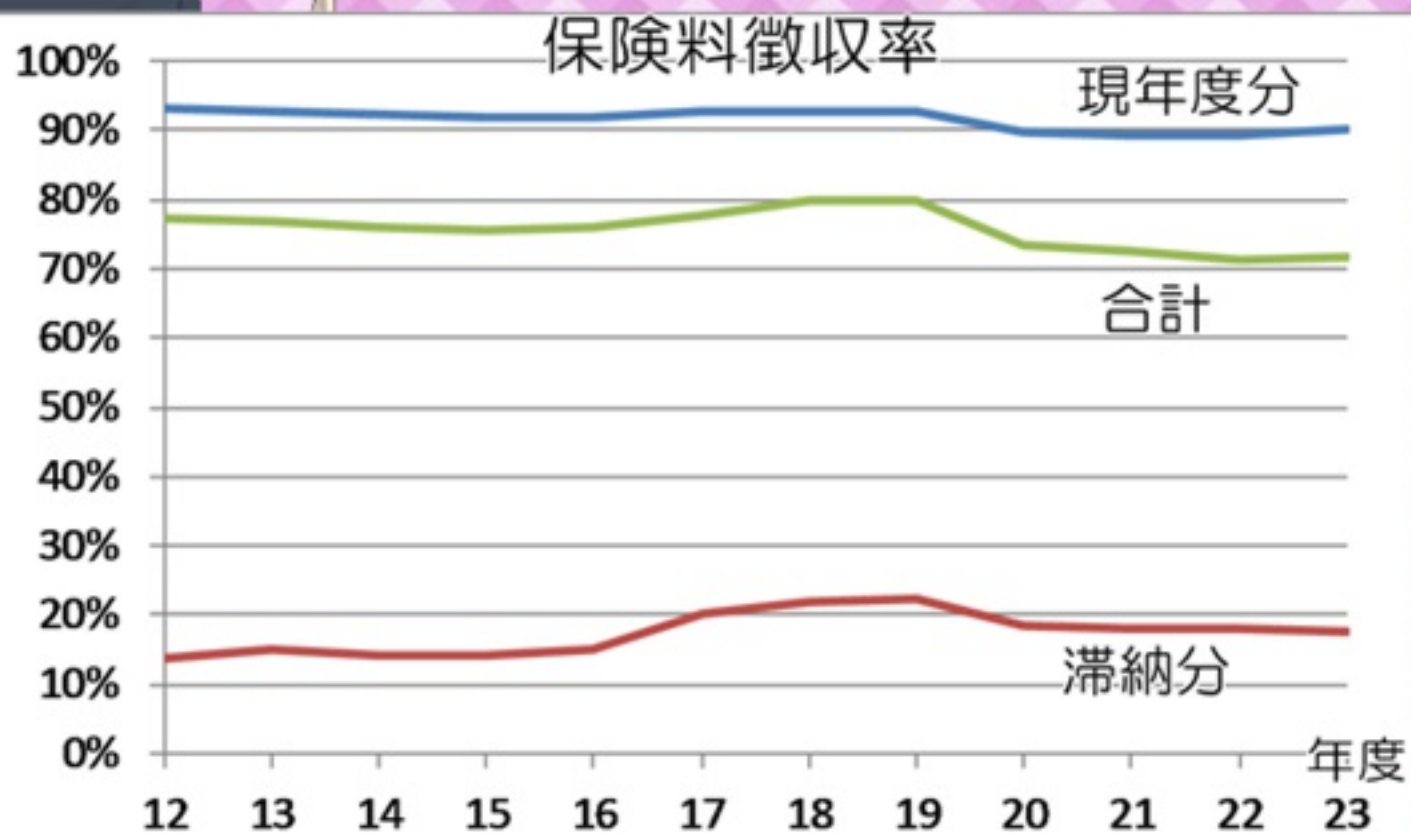
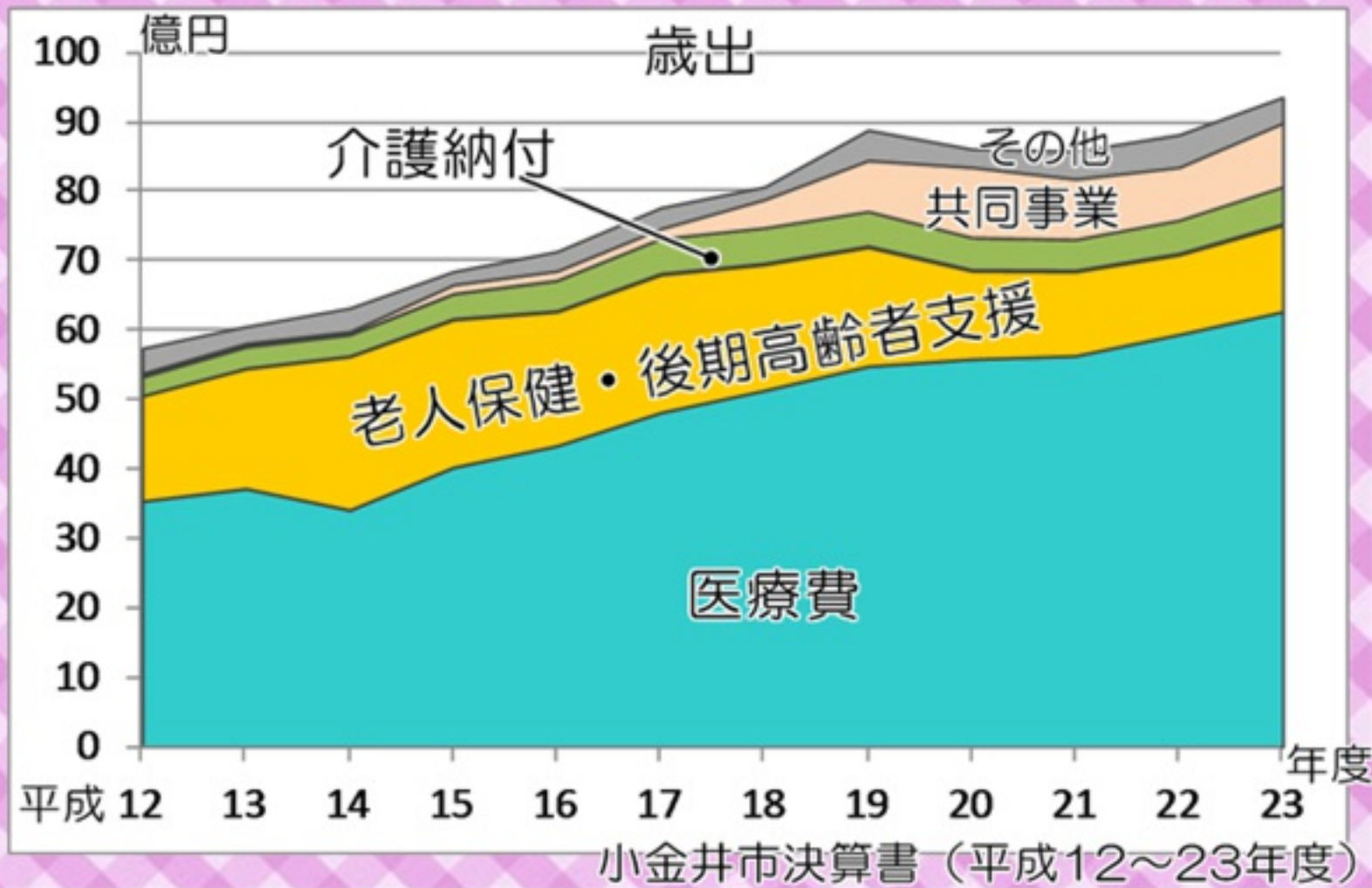
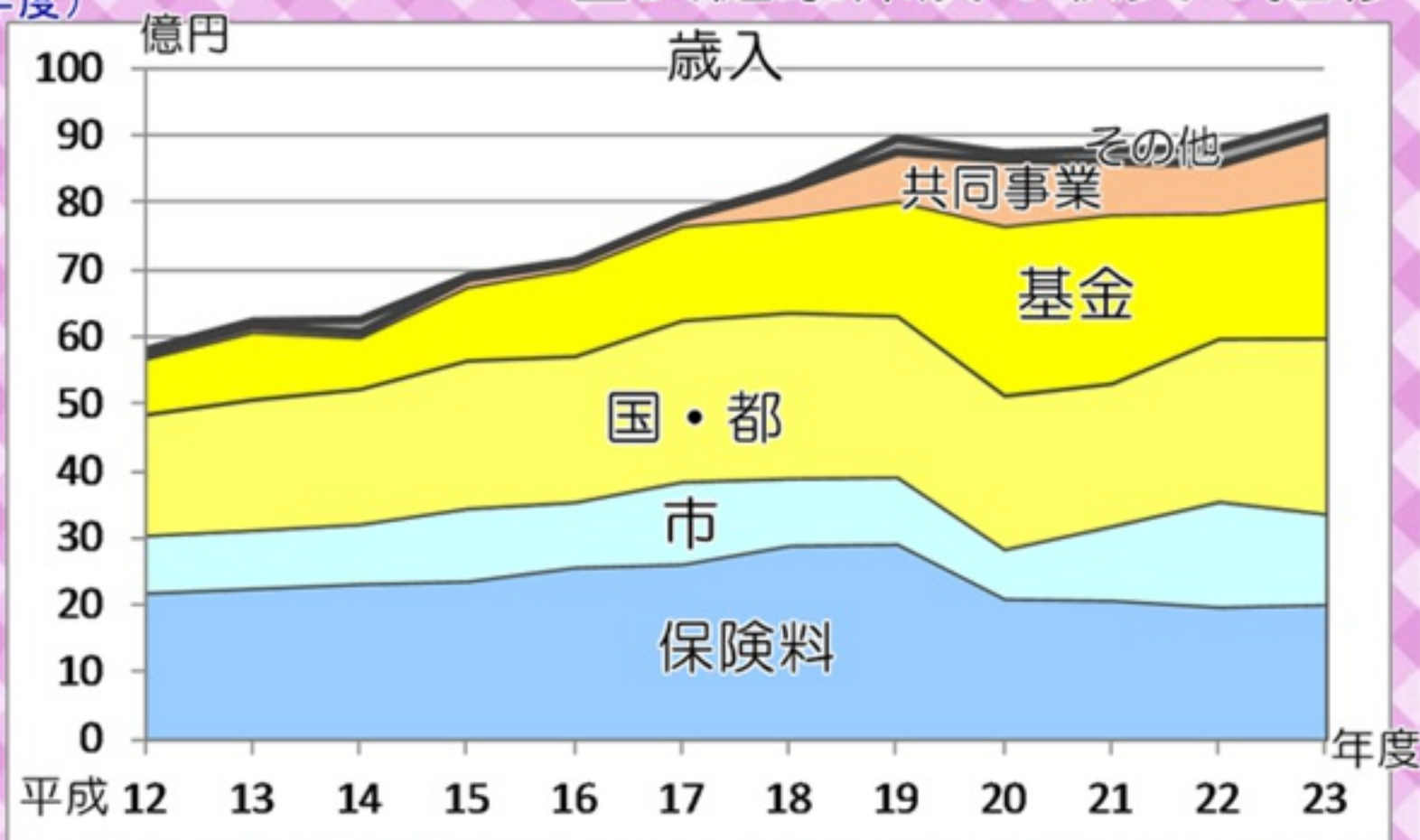
# 35.5億円→62.9億円 医療給付費（平成12→23年度）

## 国民健康保険の収支の推移

平成12年度から12年分の収支をグラフにしています。

医療費は約35.5億円から約62.9億円に増加。保険料が平成20年度に減ったのは制度の改正によるもの。その分基金からのお金が増。市からのお金は8.5億円から13.5億円に増えています。

保険徴収率はその年に収めるべき分で約90%、10%は未納なのね。滞納額は7億3400万円にもなり、平成23年度は7200万円が回収不能に。



決算カード（平成12～23年度）

小金井市決算書（平成12～23年度）

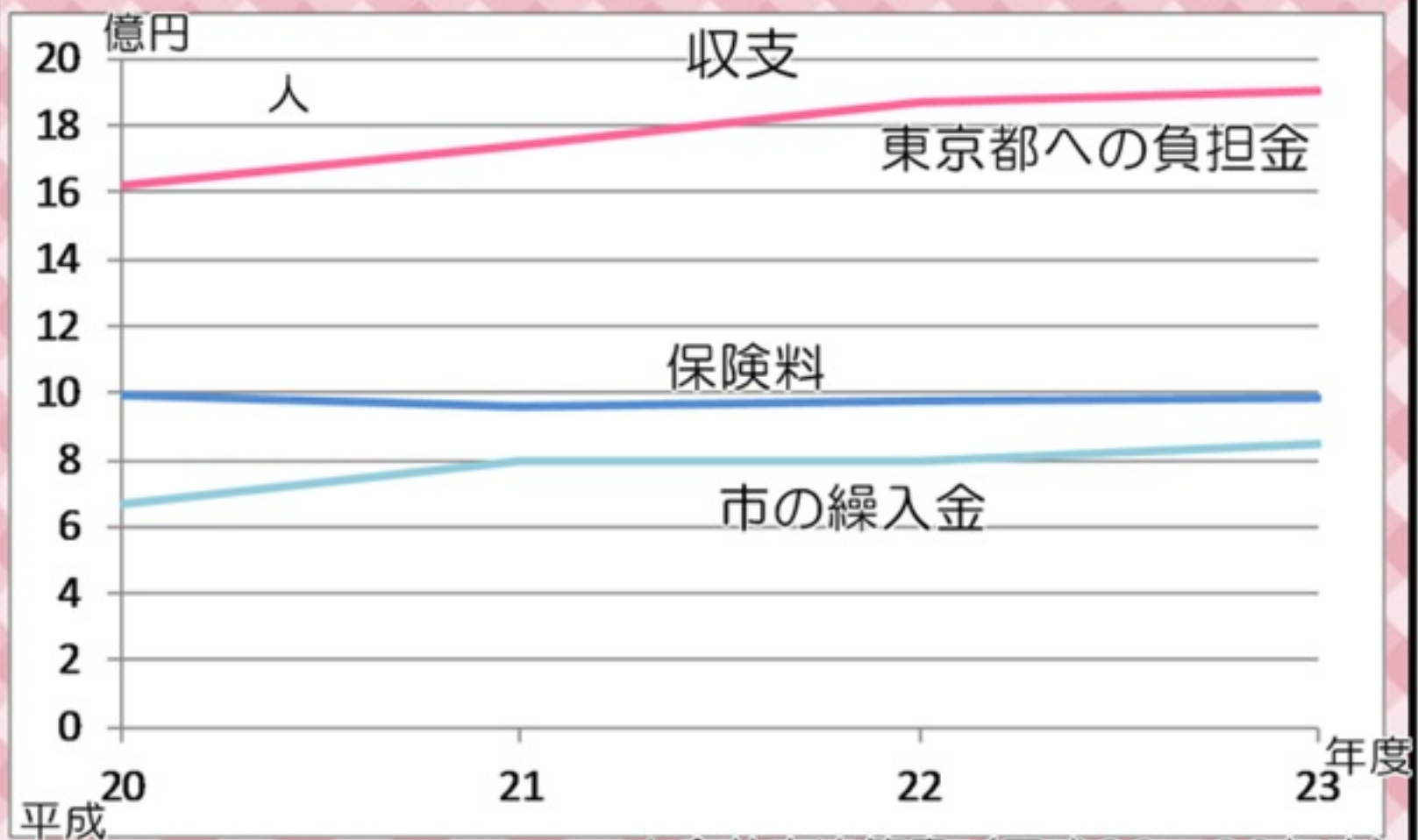
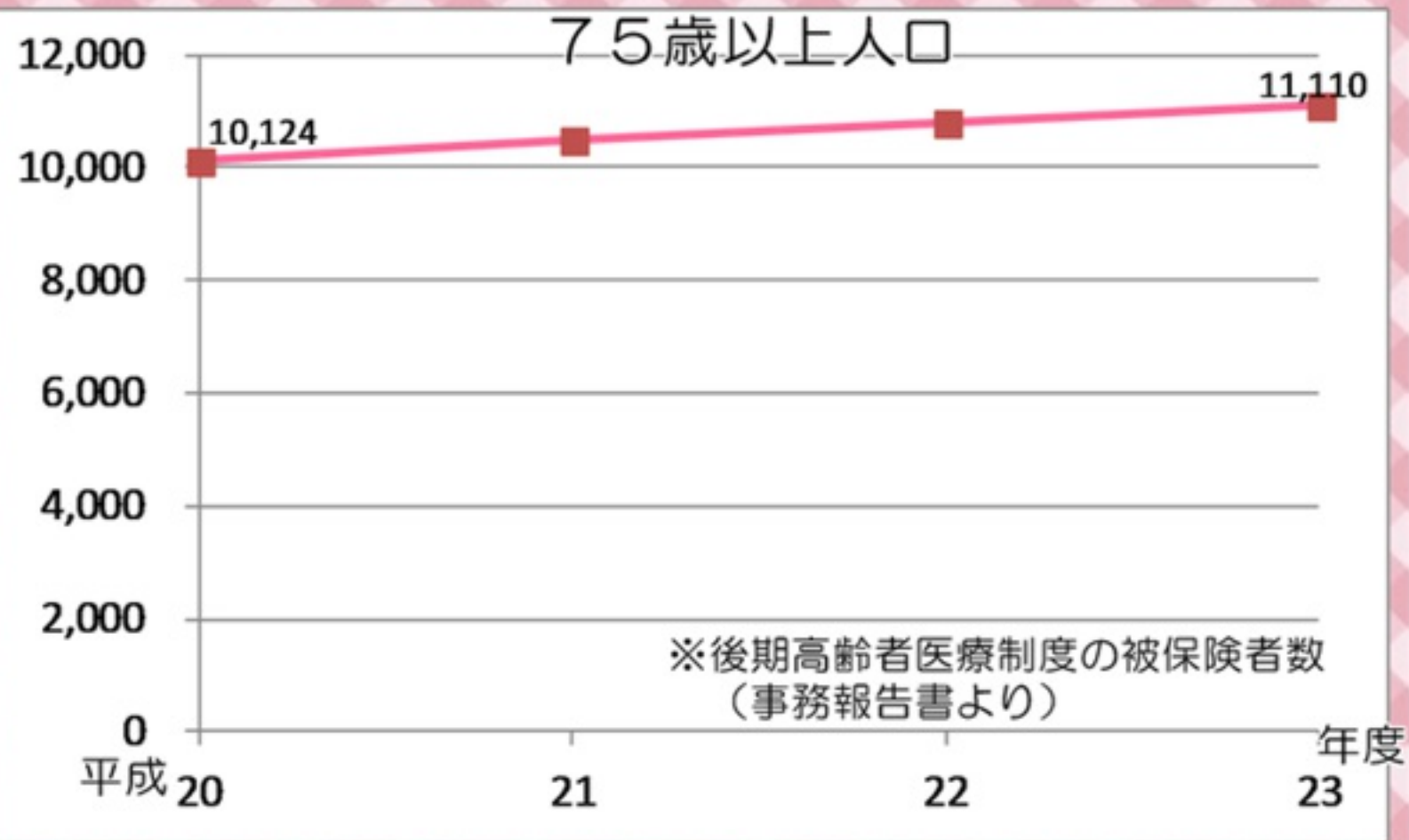
16億円→19億円

都への負担金（平成20→23年度）

### 後期高齢者医療の推移

後期高齢者医療制度は平成20年度から導入されました。それまでは老人保健制度という制度でした。  
 75歳以上の人口はこの3年間で約1,000人10%増加しています。  
 これに伴い、東京都への負担金も約16億円から約19億円に増加。  
 保険料収入は横ばいなので、市の繰入金が増えていきます。（6.6億円→8.5億円）

後期高齢者医療制度については廃止後に向けた検討が行われていたけれども、また政権交代があったりして今後どうなるかわからないわ。



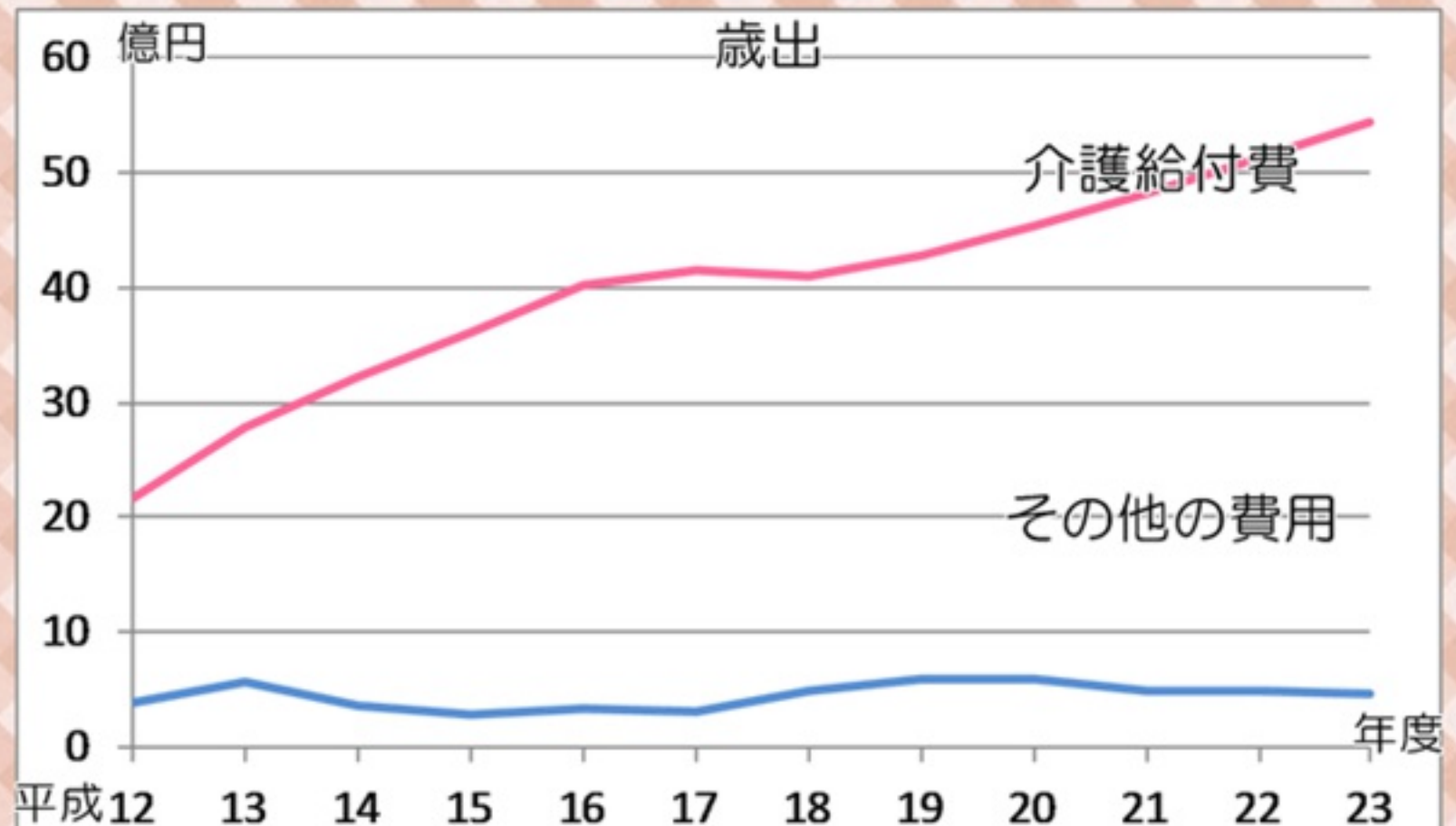
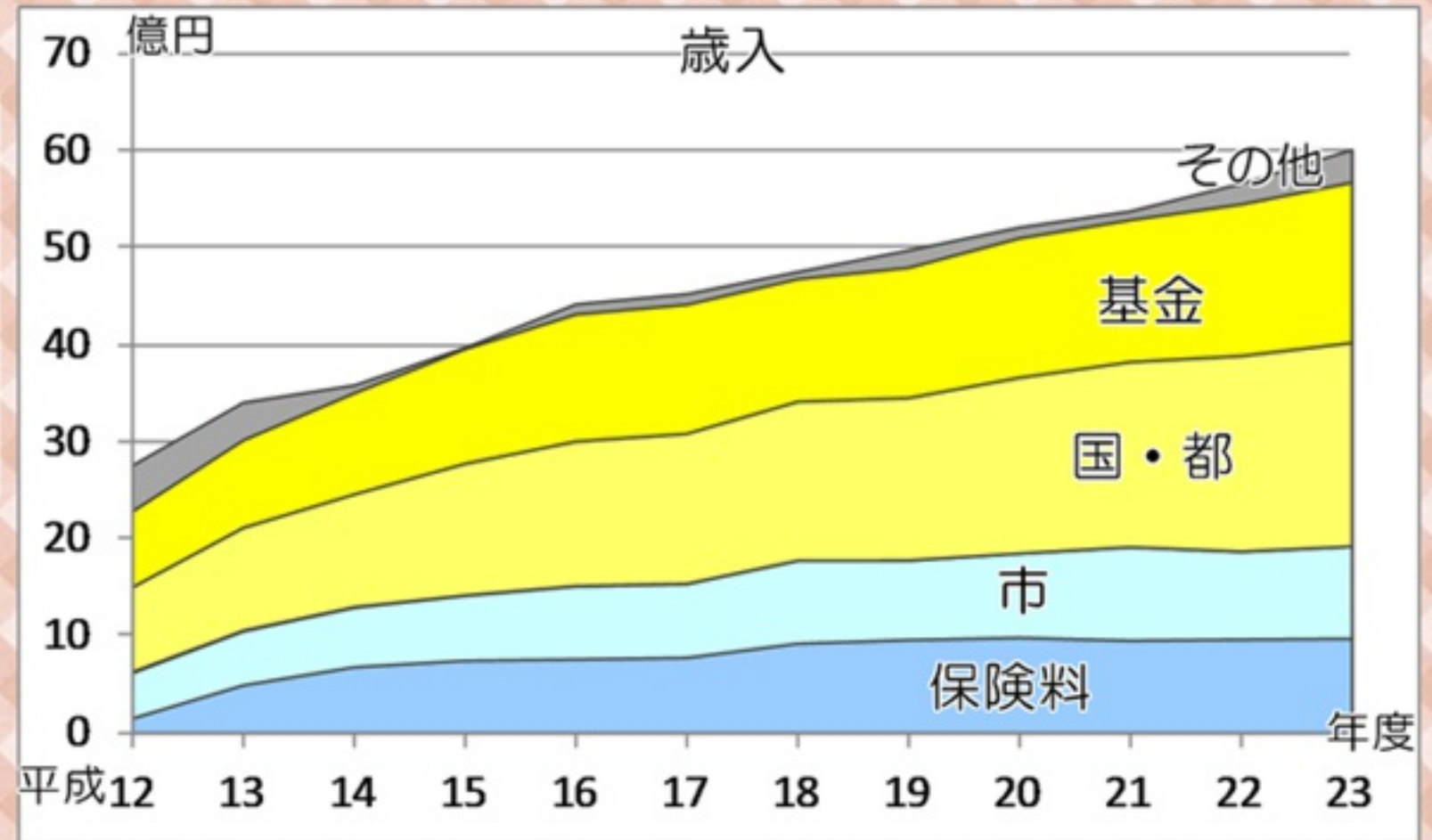
小金井市決算書（平成20～23年度）

21.5億円→54.3億円 介護給付費（平成12→23年度）

介護保険の収支の推移

介護保険は平成12年度から導入されました。介護給付費（介護にかかる費用）は21.5億円から54.3億円に増加しています。その間に65歳以上の人口は約16,800人から21,800人と5,000人増。要介護・支援の認定総数は1,829人から4,256人に増えています。

介護保険もだけど他の社会保険の費用もどんどん増えてるわ。これからどうなるのかしら。



小金井市決算書（平成20～23年度）



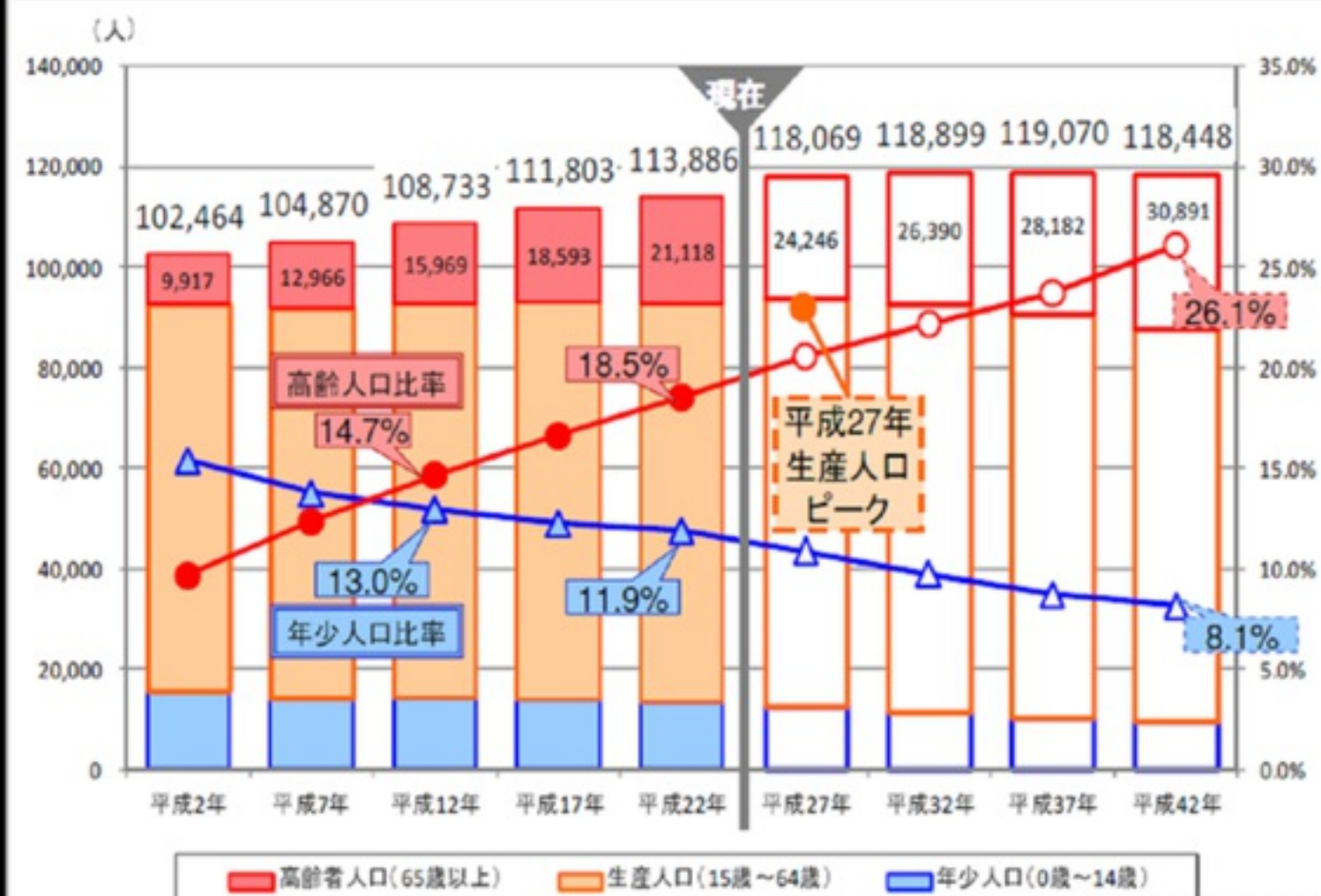
これは施設白書でも紹介されている  
将来人口予測よ。  
高齢者人口は今後20年増え続けると  
予測されているわ。

予防介護や健康づくりにも  
取り組んでいるけど  
医療費の増加を抑えるので  
精一杯。  
今後とも増えるのは  
确实だわ。

ということは・・・

歳出が減らせなければ、保険料を値上げするか  
他のサービスを減らさざるを得ないのよ。  
借金するという話もあるけど、それはいつまでも  
続けられるものではないわ。

なんだか憂鬱な話ね。



小金井市施設白書より

でも、高齢化の大きな傾向は  
避けられないのだから、  
厳しい事実をしっかりと共有する  
ことが重要なよ。

その上で本当に何が重要なのか  
しっかり議論して、選んで  
いかなければ、いけないのよ。